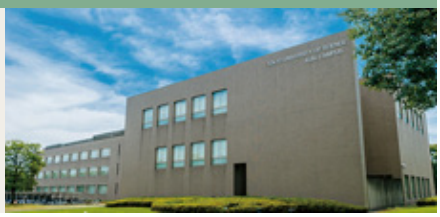
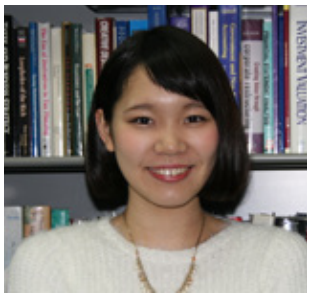
TEI 鼎談 DAN
学問と職業のカンケイから、大学進学を考える本

東京理科大学 経営学部

経営学部では文系･理系の枠組みを越えた新しい視点から、経営の理論と技法を研究します。教育目標は単なる知識の集積ではなく、自ら経営の諸問題を発見し、分析し、その解決方法を模索しながら選択できる主体性･自立性を持った人材の育成です。





■大学生
金田裕紀子さん

■先生
大沼宏先生

■卒業生
安藤博昭さん

CONTENTS

●プロフィール　●大学生活について　●就職活動、仕事について
●5年後に向けて　●高校生へのアドバイス

●プロフィール

東京理科大学経営学部の特色を教えてください

■先生

大きく分けて経営・経済・会計・情報と４つの分野があるのが東京理科大学経営学部の特色といえます。１年生から幅広く様々な知識を身に付けながら、経営学にアプローチし、専門分野として自分がどんなことを学びたいかを考えることができます。

現在、当学科には 19 の研究室があり、各教員がそれぞれゼミを開設しています。他大学では３年次、あるいは４年次からゼミに所属し、卒業研究をスタートするケースが大半だと思いますが、本学の経営学部では、時間をかけて課題を掘り下げられるよう、２年次からゼミに参加することができるようになっています。これも大きな特色

といえるでしょう。
スタートは幅広く、様々な視点から経営学を見ることができ、自分の専門分野が決まればとことん深く掘り下げることができる。経営学を本気で勉強したいと思う学生にとっては恵まれた環境であると言えるでしょう。

■卒業生
それになんといっても理科大に唯一ある文系寄りの学部ということも特色でしょうね。

■大学生
大学名が「理科大」ですからね。「経営学部なんてあったの？」と驚かれることも多いです（笑）。他大では文系の経営学部ですが、理科大では理系科目で受験できることも進学のきっかけになりました。

では、お二人が東京理科大学の経営学部に入学した理由について教えてください。

■大学生
自営業の父が経営学部の出身で、経営学には興味を持っていました。ただ私は理系コースで、国語と社会がすごく苦手…。どうしたら文系である経営学部に進学できるか、と考えていました。実家が東京都内の理科大の神楽坂キャンパスの近くで、昔から家族でよく散歩をしていたので「大学といえば理科大」というイメージもあり、調べてみると経営学部が設置されていて、しかも英語と理系教科である化学と数学で受験できるとわかったんです。

■卒業生
私も同じですね。理系教科で受験しました。経営学にはもともと興味があり、「理科大の経営学部」という点に大きな魅力を感じました。海外では経済学やMBA（Master of Business Administration：経営学修士）は理系大学が主体で行っています。日本では理系の大学が経営学に取り組むのはまだまだ異色。それを率先して取り組んでいる理科大なら、ここでしか学べないことが多いのではないか、と思ったのが志願した理由ですね。

■先生
「理系と文系の枠組みを超える」というのが当学部の教育方針なのです。それもまた特色といえますね。

先生が経営学を学ぼうと思われたきっかけは何でしたか？

■先生
私は高校生の頃、経済学に興味を持ち始めました。経済学は「社会科学の女王」なんて言われてましたから。そこで大学は経済学部に進学。卒業後は、大学院で商学の研究をしていました。実は、その当時は公認会計士を目指していて、ダブルスクールで専門学校にも通って資格取得の勉強をしていました。ただ、学生時代に何度か公認会計士の試験にチャレンジしたのですが合格できず…。進路をどうしようかと悩んでいたときに、研究室の教授から「君の研究している内容はおもしろいので、経営学を研究する道に進んだらどうか」とアドバイスをいただき、この道に入ったんです。そういう意味

では、今の研究の基礎である会計の勉強は、専門学校で学んだとも言えますね（笑）。

■卒業生
そうだったんですね。知らなかった！

先生の研究内容について教えてください。

■先生
財務会計学になります。実証会計学といって企業の決算などの財務データを分析し、企業の抱える課題や戦略などを読み解くという研究を行っています。ゼミでも同様のデータ分析を行っており、実在の企業の決算情報などを元に、そこにある数字を分析し、どうしてそういう数字になったのか、その裏にある企業の今後の動向や抱える課題は何か、などを読み解くということを行っています。
企業のデータは毎年のように更新されますし、企業の活動は景気や社会状況の影響を大きく受けます。また業種によって、影響を受けるその景気や社会状況の分野も変わってきます。大前提である会社法などの企業会計法や税制に改正があれば、数字の捉え方自体が大きく変わります。常に知識をアップデートして、幅広く社会情勢や政治動向などの情報もつかまなければなりません。
物理などの定理や法則が一定である学問とは違い、確固たる正解やゴールがないのが経営学の特徴。難しさや大変さはありますが、常に刺激を受けながら、勉強を続けられるという点では、非常に面白い学問と言えます。もう何十年もこの研究に取り組んでいますが、今だに好奇心は尽きませんし、わくわくする気持ちを持って臨めていますね。

経営の勉強は社会に出ても役に立つ学問だと言えますね。

■先生

会計などの数字を読み解き、企業の動向や課題を探るという勉強は、実社会でも非常に役に立ちます。経理や会計の仕事に活かせるのはもちろん、営業やコンサルタントなどどんな仕事でも活きてくる知識だと言えるでしょう。また、企業だけでなく社会の動きもわかりますし、物事をシステマティックに考える力も身につきますから、自分が起業し、経営者になる際にも大きく役に立ちます。
東京理科大経営学部では、起業家を養成する「アントレプレナーシップ・コース」の設置を計画しています。経営学を通して、社会で活躍できる人間力を養って欲しい、というのが私たち経営学部の教員の想いでもあります。

■卒業生
そうですね。私も先生のゼミで学んだことが現在の仕事に生きていると、日々感じています。

■大学生

私はこれから卒業研究のテーマを決めることになりますが、卒業後にどんな仕事に就きたいのかをしっかりイメージして、社会に出てからも活かせる勉強がしたいなと思っています。

●大学生活について

経営学部での学生生活について教えてください。

■先生
経営学部は現在、久喜キャンパスにあります。授業もほぼ全て、ここ久喜の１つのキャンパスで完結するようにカリキュラムが組まれています。しかし、2016 年４月からは神楽坂キャンパスに移転するので、理学部の学生との交流が増えるでしょうね。

■卒業生
体育祭は野田キャンパスで行われます。在学時は太極拳の部活に入っていたので、よく野田キャンパスには行っていましたよ。

■大学生
私はほとんど久喜キャンパスにいますね。私は実家が都内なので、久喜までの通学は１時間ちょっとかかります。入学する前は「遠いなあ」と思っていたのですが、何年も通う間に愛着を感じるようになりました（笑）。

■卒業生
私も大学院に進学してからはキャンパスの近くで一人暮らしを始めたので、「大学生活」といえば「久喜キャンパス」。風景がさっと頭に浮かびますね（笑）。久喜キャンパスは東京・埼玉のほか、群馬などからも通えるので、意外に一人暮らしをしている学生が少ないかもしれません。だからこそ、一人暮らしをしている友人は貴重で、ついついみんなで食事や飲み会をしに家に押しかけたりしてましたね。

■大学生
授業もそうですが、学生生活のほぼ全てが久喜で完結できるので（笑）。食事は食堂か、駅前にある商業施設で。あとは先生の研究室にお邪魔することも多いですね。

■先生
規模が大きくないのも本学の経営学部の特徴かもしれないですね。ほとんどの学生はお互いの顔を知っているという状態。でも、先ほどお話ししたように神楽坂キャンパスに移転するので、これを読んでいる高校３年生が入学する時にはアクセスなど非常に便利になりますね。

■大学生
新しく神楽坂キャンパスに移転しても久喜キャンパスと同じく、愛着を感じる学部であることは変わらないはず。私はそれが理科大の経営学部のいいところだと思っています。

理科大経営学部の授業にはどのような特徴がありますか？

■大学生
理系科目で入学試験を受けることができることは話しましたが、入学してからも数学が必修であったりと、一般的な文系の経営学部とはちょっと違うなと感じるところはありますね。私もそうですが、文転して入学している学生も多いと感じます。私は理系出身ということもあり、数学の授業は楽しく受けることができましたが、文系出身の友人は苦労していましたね（笑）。

■卒業生
先生も話されていましたが、経営・経済・会計・情報と幅広い分野の勉強ができるのも特徴だと思います。私は大学では会計を学び、大学院では会計と情報を選択しました。取得したい資格に応じて、授業を選べるという点でもありがたいと思います。ただ、授業は理科大特有の厳しさがありますね。実際に留年している人も多いので、本気で学ばなければ身に付かないのは当たり前ですが、しっかりと主体的に勉強する姿勢は求められますね。

■先生
先ほどもお話したとおり「理系と文系の中間を目指す」という教育方針があります。また、経営を学ぶには数学的な素養は必須です。そもそも理系・文系の２つに分けてしまうことの必要性を、私たちは感じていません。社会に出れば、どちらの知識も必要とされます。これまで学んできたことを総合的に発揮しなければならないのが経営学ですから。

ゼミではどのような活動を行いますか？

■卒業生
大学院生時代は先生のゼミのお手伝いをしていました。そこで学部生とも交流し、相談にも乗ったことがありますね。過ごす時間が長いこともあり、ゼミは大学生活でも思い出深いものとなっています。

■大学生
なかでも印象深いのは他大学の学生と行う合同ゼミですね。ゼミのメンバーとグループを組んで、一つの発表を作り上げていくというのは、難しくもありやりがいのある時間でした。他大学の学生と共に学ぶ、という機会も貴重でしたね。いまはその合同ゼミが終わって燃え尽きちゃってる感があるのですが（笑）。落ち着いたら合同ゼミの経験を踏まえて、卒業研究の内容を考えていこうと思っています。

■先生
合同ゼミも経営学部の取り組みのひとつですね。全てのゼミで実施しているわけではありませんが、積極的に他大学の経営学部とも交流の機会を持って、お互いに刺激し合うことで、意欲も高まり、新たな視点も持てるのではと期待しています。

■卒業生
合同ゼミで経験したグループワークは、社会に出た今も非常に役に立っています。社会に出ると、一人でできる仕事はほとんど無いということに気づきます。どんな仕事も、人と人がチームを作って進めていきます。仕事をうまく進めるには、メンバーの長所・短所を把握し、よい人間関係を築き、円滑なコミュニケーションを図ることが非常に重要。合同ゼミのグループワークでは、その大切さを一足先に学ぶことができたと感じています。

●就職活動、仕事について

現在就かれているお仕事について教えてください。

■卒業生
IT 系のシステム会社で、クライアント企業のシステム構築を行っているシステムエンジニアとして働いています。といっても、先ほどもお話したように、一人でできる仕事ってほとんどありません。システムエンジニア（以下、SE）という言葉で想像されるような、パソコンに向かってただひたすらプログラミングを行う、という日はまずありません。チーム内で役割分担をして、適材適所を考えて業務を振り分け、時には外部の会社に仕事を依頼したり、別部署の社員にアドバイスをもらったりしながら、システムを完成に導きます。本当に合同ゼミのグループワークの経験は、そのまま仕事に役立っています。学部生の時だけでなく、大学院生の時にもそれぞれ違う立場で参加しており、さまざまな視点からグループでプロジェクトを進めることの難しさを知ることができたのは良い経験となりました。
また、経営学部で学んできた、数字から企業を分析する考え方も、仕事に役立っています。お客様となる企業は、業界も業種も様々。毎回、一からお客様のことを勉強するところからプロジェクトが始まります。その点、会計の項目はどの業界も共通のモノがあるので、そこから特徴を読み解き、時には課題の解決法を提案することもできます。経営学と IT というと、一見するとジャンルは異なるように感じますが、生かせる部分が非常に多いというのは、私自身驚いているところです。

■先生
会計の勉強をしていると、様々な専門用語を学びます。ROE（株主資本利益率）や ROA（総資本利益率）といった言葉がそうです。何年分かの数字を見比べれば「ROA が上昇した」ということは客観的にわかります。私たちが学んで欲しいのは、そういう表面上の読み取り方ではありません。上昇したのであれば「なぜなのか？」を考え、「これからどうなる？」と予測する。そして導いた予測に、

ちゃんと他人に納得してもらえる根拠を与える。そういったシステマチックな考え方を、経営学を通して学んで欲しいと思っているのです。それができれば、どんな業界に行っても、業種に就いても活躍できる人間になれるはずです。

その仕事に就くために学生時代にしたことはありますか？

■卒業生
就職に備えて、情報の授業を取りました。また入社してから必須になる資格も、あらかじめ授業を通して勉強し、取得しました。その点でも、幅広い分野が学べる理科大のカリキュラムに助けられましたね。
経営学部から IT 系への就職は、実は多いんですよ。職場にはやはり理系出身者が多くいますが、文系出身者もいます。理系向きの仕事内容だとの印象を持つ方も多いようですが、逆に、グループワークなどの機会が多い文系出身者の方が、向いている仕事じゃないかと感じることもあります。SE は、年次を経るごとに前線で自分が手を動かし、プログラミングをするという機会は減っていきます。経験を積むほどに、チームをまとめるマネジメントの仕事が任されるようになるのです。学生時代からそういった経験ができているのはアドバンテージですね。目指しているのはプロジェクトマネージャー。学生時代の経験を生かしてがんばりたいと思っています。

大学を卒業して就きたい仕事はもう決まっていますか？

■大学生

私は数字が好きなので、高校時代から経理の仕事に就きたいと思っていました。いまは金融業界、できれば銀行の経理業務に就きたいと思っています。そのために、日商簿記２級を取得しました。授業で会計学概論と演習を取ったのは、その資格取得に役立ちましたね。いまは 1 級取得を目指して勉強を続けています。また一時期、税理士の資格を取ろうと勉強をしていました。それは本当に興味本位でのチャレンジだったのですが、勉強をするうちに金融業界に興味を持つようになり、今の方向性に志望が固まりました。今後はマーケティングや経営などの授業も受講して、より夢に近づきたい、と思っています。

■卒業生
私は学部生の時にも就職活動をしていました。そのころは社会人のイメージが持てず、周りの学生も多く受けていた銀行や証券などの金融系ばかりまわっていましたね。そのあと進路を大学院に決め、情報系を学ぶうちに SE や SIer（システムインテグレーター）に興味を持つようになりました。しっかりとイメージを持って就活に臨む、そのために勉強をするというのは大切ですね。

■先生
経営学を通して、物事の捉え方や考え方を身につけて欲しいというのは先ほども話しました。社会に出てからも同じで、いろんな仕事を経験して欲しいな、とも思いますね。そのことで幅広い視野から

物事を捉え、考えることができるようになる。経理をするのも、営業や財務、総務を経験してからだとまた違ったスタンスで仕事ができるはずですよ。

● 5 年後に向けて

5年後に皆さんは何をしているでしょうか？

■卒業生
まだ社会人 1 年目なので、現在は上司や先輩に支えられ、学ぶことが本当にたくさんあります。それでも、少しずつプロジェクトの中の一部分を任されるなど、できる仕事が増えてきていることを感じています。5 年後には、最初から最後まで自分が全て統括できるプロジェクトを経験したいですね。自分が手がけたシステムで、お客様が今までできなかったことができるようになった、というそれくらい大きな効果を生み出したいと思っています。

■大学生
私は社会人 3 年目かぁ。今はまだ就職活動も始まっていないので、なかなか想像がつかないのですが、銀行で働けていたらいいなと思います。ATM ってよく使いますよね。それもあって私には銀行はすごく身近な存在。それも銀行で働きたい理由の一つです。店舗に行ったときには、つい窓口の奥で働いている人の姿を見てしまいます。私も 5 年後にはそこで仕事を楽しみながら働けていたらいいなと思いますね。

■先生
5 年後もきっと今の仕事をやっているでしょうね（笑）。今、税金に関心を持っていて、会計の中でも税務に関しての研究を進めていきたいと思っています。
　税法は頻繁に制度が変わります。そういった社会状況の変化に合わせて、自分をアップデートしないといけない。大変ですがダイナミズムを感じられる点でもあります。たぶん、5 年後もおもしろさや刺激を感じ楽しみながら経営学の研究を続けていると思います。
理科大の教員としては、より体系だったゼミ教育や授業を作りたいと思っています。キャンパスも久喜から神楽坂キャンパスに移転します。「理科大唯一の文系学部である経営学部」として、注目を集めることも予想されます。起業家養成などの新しい取り組みも始まるので、これから受験する方にとってより魅力的な大学となるよう、尽力したいですね。

●高校生へのアドバイス

高校生へのメッセージをお願いします。

■大学生

先ほどから話がでていますが、文系とされる経営学部が理科大にあるので「理科大なのに文系なの？」と言われることは多いです。しかし、入学すると幅広い視点で経営学を捉え、文系・理系という枠組みを超えて学ぶので、学ぶほどに深みを感じ、先生との距離も近いので、愛着も感じることができる学部です。３年経って、私はこの大学に通っていることが、誇りになりました。もし経営に興味があって、大学選びで困っている人ならば、一度理科大を見て欲しいと思いますね。

■卒業生

冒頭でもお話ししましたが、理系大学の経営学部という、現在では異色な特徴も、今後日本でのスタンダードになるかもしれません。海外だとMITと同じ環境なんです。理科大はそういった環境に加え、非常に自由な気風があります。自分次第で、資格のための勉強や新たな研究を手がけることもできるはず。

また、大学自体は非常に大きな大学です。そのため、社会に出ると、本当にたくさんの卒業生と出会うことがあります。在学時はもちろん、卒業してからもつながりができ続ける。それも理科大の特徴だと思います。

■先生

現在、就職先は非常に多様化しています。それだけ本学の卒業生が、いろいろな分野で活躍しているということでもあります。

高校生にとって、経営学という分野はあまりなじみがない学問かもしれません。でも、自分がもらっているお小遣いが家計のどこから出ているか、それをあなたが使う計画をどう立てるか、ということも経営学の範囲なのです。経営、会計、戦略と組織論、というと難しく聞こえますが、あなたのいる社会を動かしている全ての事柄に関係してくる学問です。

商業高校に通われている方なら、今学んでいることがそのまま役立てられます。それ以外の方にも、模擬講義などの機会も作っています。興味を持たれた方は、移転先の神楽坂キャンパスでのオープンキャンパスなどにぜひ参加して、実際に見て欲しいと思います。2016年４月の移転と合わせて、新時代の経済学を学ぶビジネスエコノミクス学科が新設されます。新たに経営学を志す学生さんと出会えるのを楽しみにしています。

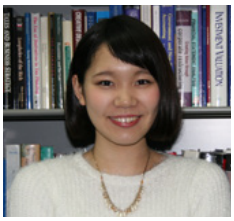
●インタビューに答えてくれた方々

■先生

大沼宏先生

■卒業生

安藤博昭



■大学生

金田裕紀子